れきみん
となん歴民だより vol.45

Morioka tonan history and folklore museum

平成27年12月22日発行

発行 盛岡市都南歴史民俗資料館 盛岡市湯沢1-1-38 Tel/Fax 019-638-7228

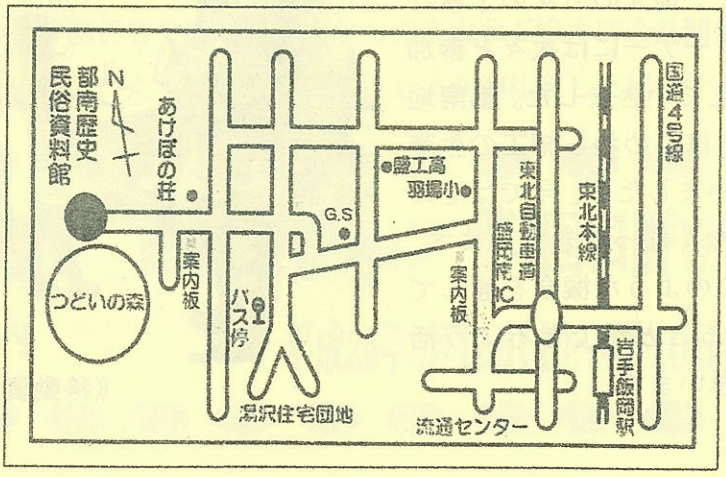
企画展関連事業「都南の民話がたり」

是非ご来館ください。お待ちしております。

— もくじ —

○秋の事業報告
○企画展「都南の社寺と人々」終了報告
○次回企画展のご案内
○資料は語る㊺
○盛岡市所在指定・登録文化財紹介㊺
○となんの昔ばなし㊺

MAP☆ACCESS



○利用案内

開館時間
午前9時から
午後4時まで

入館料
無　料

休館日
月曜日
（休日に当たるときは、直近の平日）、年末年始

秋の事業報告

①都南の歴史ロマン旅

盛岡市都南公民館の事業で当館学芸調査員が案内役を務める「都南の歴史ロマン旅」は、今年度も10月4日（日）に実施され、参加者は清水寺（西見前）や大国神社（津志田）など都南地域の神社やお寺のほか、夏屋敷のキャラボク（黒川、市指定天然記念物）や瀧源寺シダレカツラ（大ヶ生、国指定天然記念物）などを巡りました。大萱生鉱山跡のように例年人気の見学場所のほか、今年度は長善寺（上飯岡）や北野神社（西見前）などが新たに追加されました。参加者は都南地域の社寺を中心に見学しながら、開催中の当館企画展「都南の社寺と人々」を見学し、地域の神社やお寺の歴史や史跡ついて知る機会となりました。

②都南歴史民俗資料館　移動資料展

当館の所蔵資料を移動して展示する「都南歴史民俗資料館移動資料展」が、今年度も10月9日（金）～12日（月・祝）に開催されました。今回は、当館収蔵資料のなかから、手仕事に関する資料を中心に展示しました。内容は、市内の方が大正から昭和初期にかけて使用した大工道具や、わらを加工する道具、わら細工、製糸に関する道具についてパネルと合わせて紹介しました。

《地元の方から指導を受ける参加者》

また、移動資料展関連事業の体験コーナーとして10月10日（土）にはわらで縄をなう「わらなう」が実施され、地元の農家の方々の指導のもと参加者は真剣に作業に取り組んでいました。地元の方々の丁寧な指導により、体験コーナーには次々と参加者のなった縄が増えていきました。都南地域では、飯岡地区をはじめわら細工の生産が各戸で行われていましたが、今ではその技術を持つ人も少なくなってきています。当館では、今後もこのような機会を通して資料の理解を深めることができるよう活動していきたいと思います。

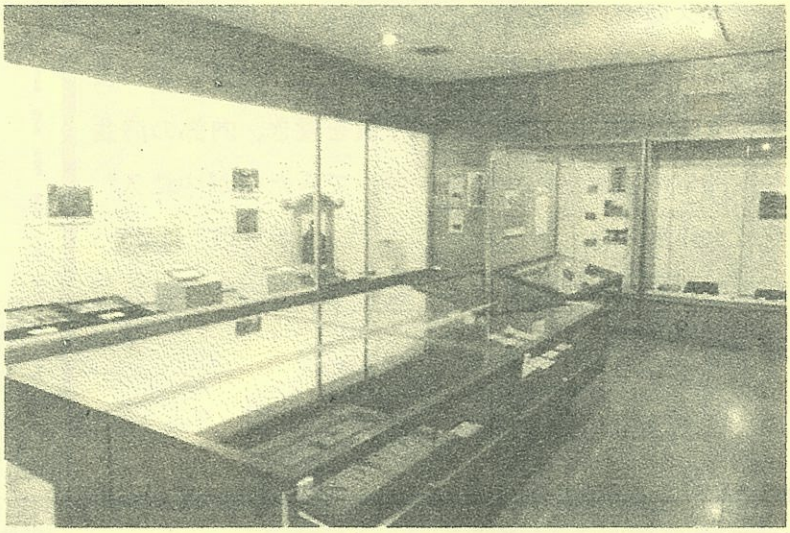
《移動資料展会場》

③史跡・文化財巡り

例年実施されている、となん・かけはしの会主催の史跡・文化財巡りが今年度も11月11日(火)に実施されました。今回は、16名の参加者が文化地層研究会の真山重博氏の案内のもと市内の寺院を中心に巡りました。主な見学場所は聖寿禅寺・報恩寺・永泉寺・大慈寺などで、各見学場所では真山氏の案内があり、参加者からは市内でも足を運んだことがない場所や知らなかったことが多いことに気づいたと好評でした。例年の史跡・文化財巡りでは市外を見学場所としていますが、今後も会員の要望を参考にしながら定期的に市内にも足を運ぶ機会をつくっていきたいと思います。

企画展「都南の社寺と人々」終了報告

平成27年9月26日(土)から開催しておりました当館企画展「都南の社寺と人々」は、11月29日(日)をもちまして終了いたしました。本展では、都南地域の神社とお寺の歴史、民話との関わりについて各社寺に残る資料を展示し紹介しました。展示では、市内津志田の大国神社所蔵の第一期津志田遊廓期に奉納された絵馬(市指定有形文化財)や市内上飯岡長善寺所蔵の鋳銅製半鐘(市指定有形文化財)などを展示したほか、和賀稗貫紫波郡三十三番札所のうち都南地域に所在した3つの札所について紹介しました。



《展示会場》

また、開催期間中の11月3日(火・祝)には都南地域の社寺に残る民話を盛岡弁に親しむ会の皆様が盛岡弁で紹介する「都南の民話がたり」を開催しました。地域の方々が地域に残る言葉で語る民話に、会場を訪れた約40名が静かに耳を傾けました。

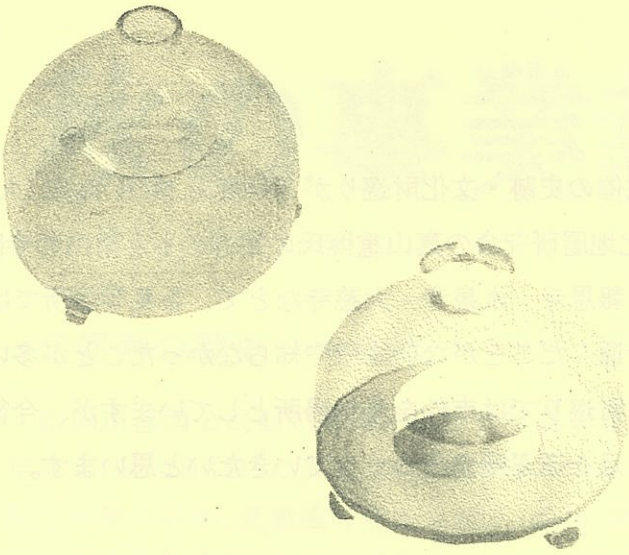
本展は、都南地域の社寺関係者や地域の方々からの多大なご協力により開催することができました。この場を借りて、ご協力いただきました皆様に心より御礼申し上げます。

次回企画展のご案内

鎌田コレクション 第6回旧暦ひなまつり展

平成28年3月12日(土)~4月10日(日)

資料は語る㊺



使用イメージ

【蠅取り器】

ガラス製で、蠅をとるために使用された道具です。上部に口があり、底部は上に向かって口が開いています。下には食べ物を置いた紙や皿を置き、内部の湾曲した部分には水を入れます。寄ってきた蠅が中に入り、水に落ちるという仕組みです。蠅取り器の上部の口には蓋がついていますが、残念ながら当館の資料は蓋がなくなっています。

参考：工藤員功「[絵引]民具の事典」(2008)、

盛岡市所在指定・登録文化財紹介㊷
盛岡市指定有形文化財

尻張釜　銘　閑事庵
四代小泉仁左衛門作　1個

盛岡藩御釜師の４代目小泉仁左衛門清光作の釜です。銅製の蓋のつまみは桃桜で、尻張形とよばれる曲線からなり胴には「閑事庵」と銘があります。閑事庵とは光照寺住職の号で、住職が東本願寺の役職にあった文政年間に京都で鋳造されたものといわれています。

４代目小泉仁左衛門作の湯釜「老松釜」も、同じく盛岡市有形文化財に指定されています。

参考・引用資料：盛岡市教育委員会『もりおかの文化財』(2008)、

『飯岡城印の杉・後編』となんの昔ばなし四十五

しかし、力が上回っていた平司は、山伏を投げ飛ばしてしまいました。投げ飛ばされた山伏が笹原の中でうろたえているうちに、平司は飽きてしまい逃げてしまいました。

「侍の作法はそんなものか。逃げるのは卑怯だぞ、待て待て」と山伏は追いかけます。山伏に捕まっては面倒だと、平司は坂追いという所の大杉林に入り太い杉に登りました。

「この杉のなかに隠れたな。逃がしはしないぞ、必ず見つけ出すぞ。金を出せだせ」

と、追いついた山伏は大杉の穴の中に向かって叫びました。ところが、そのとき大杉の穴の中には熊が眠っていたのです。大杉の穴の中に平司が隠れていると勘違いした山伏は、

「返事をしないとは臆病者め。それなら、引きずり出してやる」と力まかせに熊を引きずり出してしまいました。眠っていた熊は怒り出し、山伏と取っ組み合いが始まりました。

大男の山伏といえど、熊には敵わず散々に打ちのめされて死んでしまいました。太い杉から様子を見ていた平司は、熊が立ち去るのを確認すると杉から降りてきて

「命が助かったのも、この大杉のおかげだ。神様が助けてくれたのだ」

と手を合わせ、この大杉の実をとり無事に飯岡に戻りました。

自分の館に持ち帰った実を蒔き、育った杉は「飯岡城印の杉」と後世の村人に語り伝えられました。飯岡の秋葉神社の大杉は、このうちの数本が残ったものと伝わります。

出典：『となんの民話』（都南歴史民俗資料館、一九八八）